

教育学部附属高等学校におけるインターネット等

コンピュータ活用の現状と取り組み

その1 現状と取り組み

教育学部附属高等学校 櫻田 豪利

1. はじめに

本校でのコンピュータ活用は、定期考査での成績処理への利用から始まっている。1988年にコンピュータ委員会が設置され、当時所有していた3台のコンピュータの有効活用、また、校務や学習におけるコンピュータ利用のあり方を模索し、将来のコンピュータ・ルーム設置に備えた構想の作成にあたった。そして、1990年にコンピュータ・ルームが設置された。コンピュータはMS-DOSで動作するものであったが、このコンピュータ・ルームの管理、校務におけるコンピュータ活用の位置付けやソフト開発、利用についての支援体制、研修のあり方および教育における活用についての調査研究をおこなうことを目的としたコンピュータ研究推進特別委員会がこの年に設置された。コンピュータ・ルームは導入当時から放課後の生徒への公開を行ってきた。また、放課後の開放だけではなく、授業においては、化学でのシミュレーションを利用した課題学習、家庭科でのカルクシートを利用した課題学習、国語科でのレポート作成、英語科でのプレゼンテーションやドリルなどと利用されてきた。一方、パソコン通信の活用を目指し、NiftyServe および CompServe を利用した実践も行われた。パソコン通信の活用では、新聞情報のデータベースを利用した教材の収集を行ったり、英語科でのアメリカの学校とのメールを通じた交流を行い、メールを利用した交流のメリットと問題点の研究を行ったりしてきた。このメールの交換による交流はアメリカのニューヨークにある Park West 高校および Texas A&M University の先生との間で行われた。これらの実践報告は、全国附属学校連盟研究大会や日本教育工学協会の研究大会で報告してきた。

1995年にWindowsマシンが導入され、さらに1996年LANが本校にも設置された結果、インターネットを利用できる環境が整ってきた。なお、マシンの入れ替え後も放課後のコンピュータ・ルーム開放を続けているが、この環境整備にあたり、5年間の公開で生じた問題を考え、そのような問題が生じないようにマシンの選択等を行ったが、それでもいろいろな問題が生じた。この問題については、1996年の第12回日本教育工学研究大会で報告した。現在、コンピュータという情報機器の活用と維持および教育機器の管理運営は情報部という分掌で行っている。

2. コンピュータ設置状況

コンピュータ・ルームには、生徒用24台と教師用1台のコンピュータが設置されている。また、教官用のWindowsマシンは、学校の備品としては12台のコンピュータがある。これらは、2学年担任、1学年担任、家庭科、数学科、英語科、国語科、体育科、保健室、事務室に設置されている。これらのコンピュータはすべ

て LAN への接続が可能となっている。また、個人で購入して使用しているコンピュータも含めると約6割の教官がコンピュータを常時使用できる状況となっている。また、e-mail への対応では、“電信八号”を FD にセットし、全教官が Windows マシンのあるところならば、どこでも発信と受信ができるようになっている。

しかし、コンピュータが文房具となりつつある現状を考えると、ただ値段からみると特別な文房具ではあるが、全員が常時使用できる環境が整うことが有効活用を進めていくためには望ましい。

3. コンピュータ活用状況

担任業務では、成績処理、面談などにおいてコンピュータを利用している。このために使用しているのはマイクロソフト社の Excel である。成績処理のシートや面談用のシートはすべて自作のものを使用している。また、各教科からの成績提出は少しずつではあるが、FD での受け渡しや LAN の利用がなされている。それに対応するため、本年度は教科における成績処理のためのシートを作成し、講習会を行った。成績資料等を LAN の活用で集約していくことについては、学校の規模等を考えると不必要かとも考えられるが、送信および受信における安全性の確保の方法等を検証していく作業は今後も続けなければならないと考えている。

e-mail については、先に述べたように教官全員に FD にセットした“電信八号”が配られている。利用法についての講習会を昨年度行ったが、先に述べたコンピュータの設置状況になったのが今年度に入ってからなので、まだ e-mail の利用は一部の教官に限定されている。そこで、今後も利用法についての講習会を継続して行っていく予定である。なお、生徒に対してはメールアドレスの割り当ては行っていない。しかし、英語や国際文化の授業の中で、アメリカのサイトを利用して一時的にアドレスを割り当て、生徒間で英文のメールを交換させたり、担当教官へメールを発信する、チャットを行うなどの活動が行われた。

生徒に対しては、1年の1学期中にコンピュータ・ルームの使用法を含めたコンピュータ取り扱いの講習会を行い、その後、放課後における自由な使用を認めている。生徒のコンピュータ利用は、放課後の自由使用と授業内および授業関連での放課後の使用となっている。なお、自由使用には、次のような手続きを取らせている。利用希望者は、週番教官へ申請し、許可カードを受け取るとともに、使用者名簿に記名する。このようにすることで、使用人数の把握に努めている。生徒の自由使用では Word, Excel の利用が多いが、一部、Basic の学習をしたいとの申し出があり、WinBas95 も利用できるようになっている。また、授業では、国際文化科におけるホームページ作成や他教科も含めたレポート作成に使用されている。なお、インターネットの生徒利用は授業内だけに限っている。これは、学校で閲覧するには不適切な情報へのアクセスを避け、全員が気持ちよくコンピュータ・ルームを使用できる環境を維持するためであるが、教官室でのインターネット使用は特に制限していない。むしろ、閲覧したいホームページの関連教科の教官によるアドバイスを受けながらの使用は、学習の深化等の面で有効であると考えている。一方、河合塾や駿台予備校などでは、センター試験後の自己採点処理と成績評価についての情報をホームページ上で提供するサービスを行っているが、これを利用する生徒もいる。

教科では、インターネット上に存在する教科のメーリングリストや先生方が交流するためのホームページを授業資料の入手などに利用することも始められている。また、河合塾や駿台予備校などでは大学入試問題の速報サービスもホームページ上で行われているため、実施された入試問題の入手などにこのページが利用されている。

4. インターネットへの情報発信

公式ホームページについては、昨年度から公式ホームページを作成するための特別委員会が設置された。ホームページの公開は、社会に開かれた学校であるためのひとつの方法と位置付けている。このホームページを通して、学校行事および生徒の活動の様子や入試要綱などの情報提供を今後も充実させ、本校についての理解を得られるよう努力していきたい。また、学校の公開という点からすると、各教科での学習活動についても、その情報を提供することは重要であると考え。現在、理科の化学において、化学 II の授業用資料を教育学部実践研究指導センターの協力を得て、その一部を公開している。

5. おわりに

コンピュータの台数も増え、日常的に利用できる環境が整いつつあり、また、いろいろな試行を行ってきた経験もある。これを日ごろの教育の中に定着させ、有効に活用することが今後の課題となっている。

その2 生徒によるホームページ作成

教育学部附属高等学校 横野 健二



1. はじめに

1995年、本校コンピュータ・ルームのコンピュータが Window95 を搭載したマシンに切り替わり、翌 1996 年には、英語科と化学科の教官室に学内 LAN に接続したコンピュータが設置された。その後、他の教官室にも順次コンピュータが入り、附属高校もネットワーク化の道を順調に歩んでいる。

このような状況の中、生徒に対するコンピュータ教育も新たな形での展開を向かえることとなり、1997 年より一年生を対象に、ホームページの作成を最終目標とする授業が「国際・文化科(国際情報)」の名称で実施されることとなった。